

山梨県図書館協議会(平成30年度～令和2年度) 報告書

概要

平成30年12月4日から令和2年12月3日までの2年間の任期として活動した本協議会では、各年度の図書館事業全体を点検し意見を述べた。会議においては図書館側の提示する事業の実施結果及び計画について説明を求め協議した。直接・間接のサービス業務、資料の収集及び整理・保存、市町村立図書館等への支援と協力、各種の催しや外部との連携による事業などについてそれぞれの立場からの評価、提案を行い、図書館側に対応を求めた。多様なサービスへの要望や、サービスの質の向上、そのための資料の充実や司書の能力向上を求める意見が多数あった。また、非常に活発に利用されている点を評価する意見がある一方で、サービスや活動が十分に周知されておらず、広報活動の見直しが必要ではないかとの指摘もあった。限られた資源(人的・物的)を有効に使うための業務改善の工夫を求める意見も示されたが、多種多様な事業を効果的に進めるためには、効率化のみではなく人的資源や財源の確保など、利用できる資源の拡充を求めていくべきであるとの意見もあった。

新型コロナウイルス感染症のまん延は図書館の運営にも多大な影響を及ぼした。多くの事業が中止あるいは縮小を余儀なくされ、その影響は現在も継続している。本協議会もコロナ禍の影響を受け会議自体の開催もままならない状況に置かれた。今回の報告書の各項目では、コロナ禍に対する図書館の対応や、コロナ禍の後の図書館運営の在り方についてまでの記述には至らなかったが、ここではあらためて図書館の意義や役割を再確認しながら、各種事業を見直していくべきであることを指摘しておく。

1 サービス

(1) レファレンスサービス

・様々な要求に対して、司書の対応能力を向上させることが急務であるとされているが、実際に司書がどの程度研修に参加できているのか。予算化はされているのか。

【現状】

- ・予算や人員の制約で外部の研修に参加しにくい面もあるが、子どもの本、ビジネス支援をテーマにした研修などは予算化し継続して参加している。
- ・認知症サポート研修や県の職員向け研修などは外部から講師を招き、積極的な参加等の取り組みを行っている。

【今後の取り組み】

- ・外部研修への積極的な派遣と同時に、内部での研修機会を設け、職員間のスキルの共有化を図る。

- ・認知度が低いということであるが、現在、高校で「総合的な探究の時間」が始まっており、調べ学習をする機会が増えているので、そこと連携すると伸びていくのではないかと。
- ・また、利用に関してのイベントをすることなども必要ではないかと。

【現状】

- ・学校との関係の中で捉え、現在の課題として取り組んでいる。「総合的な探究の時間」で使ってもらっている学校もあるが、まだそれぞれの授業の進め方と図書館側の体制のすり合わせがうまくいっていないという状況がある。
- ・レファレンスサービス周知のためのイベントは実施していないが、過去にはウィキペディアに関連したイベントの中でレファレンスサービスを提供するなど、イベントにサービスを絡めての実施などを行っている。

【今後の取り組み】

- ・学校への働きかけを強化する。
- ・研修、会議等での活動の周知を図る。
- ・各種イベントでの図書館サービスの提供と、サービス周知のための広報を行う。

(2) 対象別サービス

①児童サービス

- ・児童書は定番の絵本が揃っていて複本もあり、ほぼ幅広く網羅できていると思う。
- ・ただ、定番ですぐ手に取りたい本が書庫に入っていることがあった。すぐに利用できる状態であることを望む。また、テーマの絵本や児童書の展示をこれからも工夫して実施して欲しい。

【現状】

- ・子どもの本に関しては、それに関わる大人の方へのサービスも意識しているので、子ども読書支援センターという位置づけもしながらサービスを展開している。
- ・定番とされる本は揃えて書架に並べているが、消耗が激しい場合複本を購入して傷んだものを書庫で保存する場合がある。

【今後の取り組み】

- ・必要な資料は十分に備えたいと考えている。また、専門の職員によるきめ細かなサービスができるよう取り組んでいく。

②障害者サービス

- ・リーディングトラッカーなど、いろいろな新しい取り組みがありすばらしい。
- ・外国人も含め、図書館利用に障害がある方への配慮はどうなっているか。

【現状】

- ・リーディングトラッカーは手作りをして障害の度合いや個人により見えやすい色が違うなどの点を考慮し、数種類を準備して窓口に設置してある。他館の例などを参考にしながらすぐ出来ることは積極的に取り組んでいる。

【今後の取り組み】

- ・「読書バリアフリー法」への対応も含め、障害者への多様なサービスを順次展開していく。

③外国人へのサービス

・日本の人口が減少しているなかで、政府も海外からの労働者を増やそうとしている。今後、外国人の労働者が増えてくると、日本語でのコミュニケーションが不得手な利用者の増加が想定される。

また、立地の良いこの図書館で日本語や日本人の考え方を教えたりする活動ができれば良いと思う。外国人のためのサービスをどう考えているのか。

【現状】

- ・基本的なサービスは従来からあるが、絵本は多言語の資料が揃っているので、それを宣伝しながらそれをもっと有効に活用していくことを考えている。また、協力会の活動を通して外国人の方とのつながりもあり、そこからもっと広げることも考えられる。

【今後の取り組み】

- ・金田一館長からも、外国人の方へのサービスへの取り組みを工夫するよう指示がある。
- ・日本語を教える、日本語に親んでもらえる活動を検討していきたい。

コミュニケーションシートについて、特に県内にはポルトガル語やスペイン語圏の方も多くいるがニーズはいかがか。

【現状】

- ・ニーズを考え、やさしい日本語、韓国語、中国語、英語を作成し、窓口からの要望でベトナムやフィリピンの言葉でも作成している。

【今後の取り組み】

- ・利用の多い言語については順次作成していく予定である。

④貸出サービス

- ・本の貸出しの対象は子どもが多いと思うが、現在、少子化で減少している現実がある。借りている利用者の年代層などの分析は行っているのか。
- ・県立図書館のように児童書の貸出数が半数を占めているような図書館では、少子高齢化で子どもの数が減少しているため、当然、貸出数も落ちてくる。今後は、単純に対前年度比の増減で計るより、貸出対象集団のなかでの利用割合で計る方が良い。

【現状】

- ・年代別の貸出数は、その時々では把握できるが、年齢までは正確に抽出できない。利用状況では、児童書が貸出数の半数以上を占めている。前年度に比べて一般書、児童書ともに減少している。資料の品揃えという面では少し要望に答えられていないのかもしれないと考える。

【今後の取り組み】

- ・多様な図書館利用の中で貸出数は一つの指標として重要である。年齢層による図書館利用の動向なども調査し、適切なサービスを進めていく。

2 資料

(1) 資料収集

・様々な領域の図書を購入していると思うが、新しい情報でないと必要とされないもの、例えば、医学、法律、許諾関係については、古い情報では意味をなさない部分がある。特に理系（情報、医学）関係では、技術革新が速く賞味期限が短いので、更新があることが望ましい。どういう基準で選定されているのか。

【現状】

・図書館資料として必要なものを選択するという観点で、各分野の基本的な収集方針を定めており、それに沿いながら、各年度の方針に従って収集内容を決めている。選定に当たっては県立図書館として将来的にも必要な資料を中心にバランスをとりながら、現在の要求に応えるものも対象にしている。県立図書館として備えなければならない本も多く、専門書が多くなっている。

【今後の取り組み】

・市町村立図書館の利用者のニーズにも対応できる、また、現在の利用者だけでなく、将来的な利用も想定した収集をしていく。特に山梨県関係の資料については、そういう視点で収集をしていく必要があると考える。

・課題解決型のサービス、すぐに日常的に役立つサービスの提供も重点に置いており、それに必要なハウツーものも必要に応じて収集する。

・法律、医療など専門の主題分野については、個人では収集困難な資料も揃え、提供情報の高度化について検討していく。

・専門の主題分野については、専門家の見解を参考にするなど、適切な収集に努める。

・作家が苦勞して本を出すと図書館が無料で読ませてしまうため、作家が育たないという意見がある。著作権とのバランスに関してはどう考えるか。

【現状】

・著作権法では著作者の権利を守ることと、公共の利益のために著作物を適正な利用に供することが2本柱であると考え。図書館は著作物を自由に見てもらおうということが基本であるので、その環境を整えることが大事であるが、そのことで作家の利益を害するという

ことがあってはならない。まず、公共性ということを念頭に置いてサービスに取り組んでいく必要がある。

【今後の取り組み】

- ・図書館の社会的役割を重視し、その使命を果たすために必要な資料を収集していく。

・市町村立図書館との蔵書構成については、打ち合わせ、すりあわせ、方針の確認等はあるのか。

【現状】

- ・市町村立図書館との調整は特に行っていない。ただ、県内の図書館ネットワーク化が進んでおり、その中で資源の共有化を図っている。また、利用者からの要望を参考にしながら、どういう選択をしていけば良いのかを検討している。

【今後の取り組み】

- ・地域でのそれぞれの役割を踏まえ、特に県立図書館として市町村立図書館を支える視点から必要な蔵書を備えていくことを重視し収集を進めていく。

(2) 地域資料

・郷土資料を使用しての研究の成果を県民に広く知らしめていくというような講座、企画の実施があれば良い。

【現状】

- ・外部の様々な専門家の力をお借りしていろいろな企画を実施し、そこに図書館の資源を提供する取り組みも進めている。また、図書館を使ったイベントに図書館資料を提供する試みもずっと続けている。

【今後の取り組み】

- ・県立図書館を利用した研究の成果を、図書館で発表するような活動に積極的な支援を行っていきたいと考える。

(3) デジタル化

・デジタルアーカイブの拡充に際しては、どういうジャンルを重点的に行うのか。

【現状】

- ・著作権の処理の関係があるため、基本的に地域資料の古いものが中心となる。以前は、古文書、古記録などを所蔵していたが、これらについては、県立博物館に移管している。移管前に行った「甲州文庫」というコレクションの一部をデジタル化したものは、そのまま公開している。それ以降は主に明治以降の印刷物の中で例えば議会議事録、統計資料等も対象にしている。

【今後の取り組み】

- ・目立つ資料ではないが、地道に作業して数量が蓄積されることによってツールとして役に立つコンテンツを中心にデジタル化を進めていく。

3 支援・協力活動

(1) 主催研修

- ・主催する研修の参加者が減少しているとのことだが、内容はどのようなものなのか。また、テーマはどのようなものか。
- ・講師派遣は、具体的にどのような活動をしているのか。

- ・市町村立図書館職員を含めた中で専門研修の内容が、求められているものと合致しているのか。また、非正規職員の任用制度が令和2年度から変わり、研修を受ける機会が少なくなることが危惧されているが、状況を把握し対応しておくことが重要である。

【現状】

- ・図書館職員、ボランティア、学校職員等に向けた研修となっていて、資料管理やサービスについての専門的な内容について実施している。また、子どもの読書に関する専門研修もいくつかあり、山梨大学と一緒にさせていただいている「子どもの読書オープンカレッジ」という幅広い層に向けた講座もある。
- ・子どもの本に関する要請が多いが、「子ども読書支援センター」を設置し子どもの読書に関わる様々な方をサポートしている。例えば、学校での読み聞かせのやり方やブックトー

クの方法についての講座などを開いている。生徒向けにする場合もあるし、教師向けにすることもある。他にも市町村立図書館から研修の要望があれば対応している。

- ・市町村立図書館職員の人材育成については、内容のマッチングがきちんとできているか確認し、ニーズも的確に把握していかなくてはならないと考え、取り組んでいる。
- ・人員が厳しく研修に参加できない市町村については、こちらから出かけて行く機会、例えばブロック単位に研修機会を設けるという提案もしている。

【今後の取り組み】

- ・県内の図書館サービスを底上げするための重要な事業であり、テーマや内容だけでなく実施形態も含め効果的な研修となるよう検討していく。

・市町村立図書館側では、毎回研修に参加できないという事情もあるが、必要性も増し、今後有益な研修として認知症の研修がある。多様な利用者に対応していくため、今後も市町村立図書館が求める研修会を開催してもらいたい。

【現状】

- ・研修事業は県立図書館以外を会場にすることもある。平成30年度の認知症に関する研修は外部講師をお願いし、中央市立図書館を会場として実施した。
- ・なるべく市町村立図書館が必要としている研修内容を設定するよう企画している。

【今後の取り組み】

- ・今後も市町村立図書館・学校のご意見を踏まえながら見直しを行っていく。
- ・メニューを用意してサービスするという段階までは進んでいないが、人員をやりくりしながら、要望があり相談してもらえれば、例えばブロック単位の研修なども検討していく。

(2) 学校との連携

・今年度より小学校からの新しい学習指導要領が実施され図書館との関係が出てくるが、それぞれの学年ごとの教科の単元についてモデルみたいなものを作成すれば市町村立図書館との連携がしやすくなるのではないかと。

・学校側では、単元に特化されていると使い易いと思う。また、新学習指導要領では様々な方面の読書といったことも謳われているので、他の教科における支援セットもあれば良い。

【現状】

- ・授業の単元にまで踏み込んでセットを用意することは県立でも市町村立でも教育現場とのかなりのすり合わせがないと難しい。現在はもう少し大括りの授業に役立つ分野で支援セットが作られており、それを学校で活用しているところである。
- ・学校支援セットという朝読用やテーマ別に本のセットを用意して提供している。また、年齢別に様々なサービスツール、読み聞かせ、ブックトークなど、手法、ノウハウについてもパンフレットを作成し提供して活用を促している。また、活用の仕方についての研修も要請があれば職員が出かけている。

【今後の取り組み】

- ・現在の取り組みを進めながら、学校への働きかけを強化していく。

・市町村立の学校では、正規の司書が減少してきて外に出掛けて研修に参加することが難しくなっている。

【現状】

- ・市町村立図書館でも同様の状況がある。人員の問題もあり、難しい問題だと考えている。

【今後の取り組み】

- ・図書館から出向いての講座、研修についても要望に応じて検討していく。

(3) 子ども読書支援

・学校との連携で、学校行事での図書館利用を行うことで連携をしているということであるが、入学前の小さなお子さん、また、園児、乳幼児には何か支援や働きかけをしているのか。

・図書館のイベントの中で、お子さんが興味を持って本を手にとろうとしても、本を壊してしまうことを気にして保護者が本を遠ざけてしまうことがあり、子どもの将来の本離れに繋がる危惧がある。保護者の方にどう図書館を楽しむかという支援をしてもらいたい。

【現状】

- ・子ども読書支援センターを設置し、子どもの読書に関わる保護者やボランティア、市町村立図書館の職員に対する支援、研修や人材育成を行っている
- ・「子どもの保護者への啓発事業」をNPO団体に委託し、保育所、幼稚園、小学校に講師を

派遣して子どもの読書についての講座、学習会を開催している。

- ・直接サービスの場として児童資料コーナーがあり、ご家族の方に利用してもらっている。また、「おはなし会」や外部の団体との連携の中で支援活動を行っている。
- ・蔵書は公共物であるので利用に際してマナーの啓発を行っているが、まずは本に親しんでいただくことを優先している。

【今後の取り組み】

- ・子ども読書支援センターの機能を強化し、さらに様々な取り組みを進めていきたい。
- ・マナーを守っていただくことは当然だが、遠ざけてしまっは本末転倒である。今後も研修や日常のサービスを通して本と親しむ活動を進めていく。

4 交流事業

(1) 主催・共催事業

- ・県の大きなイベントを地域で開催してもらえないか。県立図書館が遠くない地域住民のために、県と地元の図書館で読書推進などのイベントを開催したらどうか。
- ・同じような要望は、大学でもあり、国中だけでなく郡内でも実施してもらいたいということを知る。

【現状】

- ・イベントは県立図書館の来館者に向けたものと、館長が出向いて行う出張講座があり県内各地で実施している。

【今後の取り組み】

- ・市町村立図書館の意見を聞く機会を設けながら、各地域での活動も強化していきたい。

- ・年間これだけ多くの主催・共催のイベント、企画をこの良い立地条件の下で実施してい

ることに掛かる費用は大変な金額になる。ただ、管理が大変であるということであるが、管理が可能となるしくみを考えて、365日施設が塞がっているというような計画を考えれば、来館者がさらに増加して年間100万人を超える図書館になる。

【現状】

- ・限られた人員、スタッフ、予算・経費のなかで施設の活用、交流の促進、賑わいの創出ということで、様々な分野の外部の関係団体等の力を借りながら多くの人を呼び込むことで主催・共催事業に積極的に取り組んでいる。施設の稼働率も非常に高い。

【今後の取り組み】

- ・今後も多くの関係団体等と連携しながら、事業を進めていき、交流、賑わいの充足を図っていく。
- ・また、同時に県民の課題解決のために必要な情報を提供するイベント・企画の実施を模索していく。

(2) やまなし読書活動促進事業

- ・昨今、本を読まない人が多くなり、書店が大変である。そういう意味では「やまなし読書活動促進事業」の活動は良いと感じている。友人どうして本を薦め合うというような活動をすれば、読書率も上がってくる。
- ・「やまなし読書活動促進事業」にはいろいろな活動があり、まだ知られていないものもあるので、情報発信して県民に知ってもらう機会をつくったら良いと思う。
- ・他の団体や個人が行っている読書推進のための活動もこの事業の一環として取り込んだらどうか。

【現状】

- ・「やまなし読書活動促進事業」は、「贈りたい本大賞」や「ビブリオバトル」、「やま読シンポジウム」、「ブックフェア」、「やま読ラリー」、「うちどくポップ展」などの取り組みを行っている。
- ・広報は、ポスター、チラシ、作品展示等で随時行っている。
- ・それぞれ参加者も増加するなど、徐々に県民の読書活動の推進が図られてきていると考えられる。

【今後の取り組み】

- ・今後も引き続き、県民の読書活動を促進する様々な取り組みを通じ、読書習慣の定着に取り組んで行く上で参考とさせていただく。

- ・幅広く県民主体の運動となるよう取り組みを進めていく。

5 広報活動

・この図書館は、良い立地にあり、良い環境が整っているため、全国的にみても利用率が高く、館内は利用者が一杯いて活気がある。こういう面をもっと上手にアピールしていき利用者増に繋げてくべき。

【現状】

- ・イベント等については県庁経由でマスコミ各社に資料提供している。
- ・チラシ、ポスター等については予算化されておらず、大規模な配布は行えないが、可能な限り内部で作成したものを図書館、学校等には配布するようにしている。

【今後の取り組み】

- ・効果的な広報を工夫し、積極的にアピールしていく。
- ・直接のマスコミへの働きかけや、関係団体を巻き込んだ広報活動を検討する。

・県立図書館の活動内容は、まだ知られていない部分が多いと思う。フェイスブックも月1回の更新ということであるが、もう少し回数を増やすとかしたほうが良い。

・情報発信の方法はITになっていくので、若い世代の人達に声が届き、広く知られるような方法を考えていく必要がある。

【現状】

- ・現在、フェイスブックは週1回以上の更新となっている。またツイッターでの情報発信も積極的に行っている。

【今後の取り組み】

- ・新型コロナウイルス感染症防止の観点からも、非接触型の情報発信（ホームページ、フェ

イスブック、ツイッター、デジタルサイネージ等)を進めていく。

6 職員

- ・専門性の高い司書を配置したり、今いる司書の専門性を高めることは必要なのか。

【現状】

- ・人事面で限られた配置箇所の特化させることは難しいが、山梨県関係の地域資料あるいは児童サービス関係については、配置を工夫するなどして対象分野に関するスキルの高い職員が担当できるよう努めている。
- ・館内研修によって外部研修の成果や、それぞれの持つ専門知識の共有化に取り組んでいる。また、全ての司書が一定のレベルでサービスできるよう窓口の配置を工夫している。

【今後の取り組み】

- ・外部研修への積極的な派遣と同時に、内部での研修機会を設け、職員間のスキルの共有化を図る。

7 施設・設備

- ・駐車場の出入口のカードの出し入れ口の利便性が悪いと感じる。

【現状】

- ・利用者や障害者関係の団体から、カードの取り出し口の位置が高い等のご意見をいただいている。
- ・機械は高額なものであり、すぐに改修することは難しいため、職員による人的補助で対応している。

【今後の取り組み】

- ・施設の改修等については日常的な要望に十分配慮し、できるだけ利用しやすいよう改善できるよう検討していく。

8 指定管理者

- ・指定管理者の自主事業の内容については、どのように企画しているのか。

【現状】

- ・賑わいの創出をするというミッションが与えられているので、それに基づいて幅広い年代の方にも楽しんでもらえるよう内容を企画している。生涯学習課に提案し、図書館の承認を得てから実施している。内容は比較的自由にさせてもらっており、現在は連携という意味ではイベントの内容に沿った関連書籍を展示するなど、図書・資料の貸し出しの促進に繋がるよう努力している。

【今後の取り組み】

- ・さらに県側との連携を深め、充実した事業を実施していく。

9 業務改善

- ・新規の事業を実施するためには、限られた人員、スタッフの中でこなせる業務量が決まってくるため、既存の事業を取捨選択していかなくてはならない。いかに取り組んでいくのか。
- ・新規の事業を実施するための業務の見直し、働き方改革を進めながらも図書館がよくなっていき、館員が楽しく業務を行えることが大切である。

【現状】

- ・積極的に新しい企画を検討し、実施していくこととしているが、一方で業務改善は毎年行っており、例えば資料展示では回数や期間を見直した。

【今後の取り組み】

- ・県民サービスの低下を招かないよう留意しながら、業務の見直しと削減を行う。

以上

資料

■ 協議経過

山梨県図書館協議会委嘱・任命 平成30年12月20日（木）

第1回協議会 平成30年12月20日（木）

- ・ 県立図書館の運営状況について
- ・ 読書推進事業の取り組みについて
- ・ 県内図書館統計の報告

第2回協議会 令和元年 7月23日（火）

- ・ 平成30年度の運営状況について
- ・ 令和元年度の事業について

第3回協議会 令和元年12月 3日（火）

- ・ 令和元年度事業の中間報告について
- ・ 図書館評価と外部評価について

第4回協議会 令和2年 2月21日（金）

- ・ 令和元年度事業の状況報告について
- ・ 平成30年度外部評価について

第5回協議会 令和2年11月27日（金）

- ・ 図書館協議会の報告書について
- ・ 平成元年度図書館評価について

■委員一覧

任期 平成30年12月4日～令和2年12月3日

	氏名	所属・職業（在任時）
会長	長谷川 千秋	山梨大学教育学部教授
副会長	丹沢 良治	(株)タンザワHD 会長 甲府商工会議所 相談役
	青池 恵津子	都留市立図書館長
委員 (五十音順)	井上 耕史 ※H31.4～R2.3	山梨県立甲府南高等学校長 山梨県高等学校教育研究会学校図書館部会長
	大藤 愛子	NPO 法人ちびっこはうす 韮崎市子育て支援センター事務局
	近藤 裕子	山梨学院大学 学習・教育開発センター（LED） 准教授
	鈴木 信行	社団法人山梨県私学教育振興会幼稚園部会長 聖愛幼稚園園長
	田中 祐光	NPO 法人つなぐ副理事長
	内藤 和彦 ※R2.4～	甲斐市立双葉東小学校長 山梨県学校図書館教育研究会会長
	中山 吉幸 ※R2.4～	山梨県社会福祉協議会事務局長
	西尾 敏己	公募委員
	羽田 孝行 ※R2.4～	山梨県立富士北稜高等学校長 山梨県高等学校教育研究会学校図書館部会長
	日向 良和	都留文科大学准教授
	廣瀬 敏夫 ※H31.4～R2.3	甲府市立中道北小学校長 山梨県学校図書館教育研究会会長
	藤巻 愛子	山梨むかしがたりの会代表 日本民話の会会員
	藤森 一浩	公募委員
	古屋 金正※ H30.4～R2.3	社会福祉法人山梨県社会福祉協議会事務局長
	山内 彩	NHK技術局総務部総務グループ副部長 (NHK 甲府放送局企画編成部副部長)

